

## 第 53 回 (社) 日本実験動物学会総会 (神戸国際会議場) を終って

大会長 倉 林 譲

岡山実験動物研究会会長・岡山大学客員研究員

平成 18 年 5 月 11 日(木)～13 日(土)の 3 日間、神戸国際会議場にて、第 53 回日本実験動物学会を私が大会長を仰せつかって開催しました。本大会への参加者は、1200 名にも及ぶ盛会であり、北は北海道、南は九州地区から大勢の参加者が集まりました。本総会の主題は、「先端医療の発展と実験動物—実験動物福祉に則した適正な動物実験」をテーマに演題を募集したところ、一般演題が 210 台を越す演題が集まりました。また、公開シンポジウム 2 本(11 演題)、シンポジウム 8 本 (39 演題)、バイオリソースパネル展示 14 演題の発表がありました。

まず、公開シンポジウム 1) がありますが、鍵山先生にオーガナイザーをしていただいて「実験計画書の作成と動物実験委員会による審査」について、審査については実例を挙げて、一般の人も交えて実際の審査風景を実現していただき、いろいろな方からのご発言がありました。公開シンポジウム 2) は「再生医学の現状と今後の展望」について滋賀医科大学の鳥居先生にオーガナイズしていただきました。最先端医療についてのシンポジウムがありまして、臓器再生が実現できるまであと僅かな思いがしました。しかし、未だ難問もありすぐには行かないところもあるようであります。

また、シンポジウム 1) は「実験動物の麻酔—ここまで来た麻酔」については、動物福祉上最も大切な動物実験手技の基本的な技術であり、これを知らなければ動物実験を行う資格さえ失われると言っても過言ではない技術であると思います。このシンポジウムは倉林会長の 40 年間に渡るライフワークでありますので、このシンポジウムのコーディネーターならびに座長を行った。2) 「糖尿病研究におけるモデル動物—これまでの役割と今後の発展性—」については、横井先生にオーガナイズしていただき、生活習慣病についての重要性ならびに解明を行っていただくことにしました。3) 「実験動物としてのブタの重要性、今後の展開」については、増田先生にオーガナイズしていただ

き、最近の動物実験によく使用されている動物としてのブタについての有用性等につき討論をしていただいた。4) 疾患モデル関係演題 4 演題については、日本疾患モデル学会と共催で「疾患モデルにおける単一遺伝子の多面作用について考える」として、国枝先生にオーガナイズしていただきました。また 5) 「異状環境圧力の適応」については、八木先生にオーガナイズしていただき、高圧酸素療法、潜函病ならびに気象病等の治療に使用している療法で有名であり、また、圧が関係するパラボリック研究、麻酔時の血液ガス値に及ぼす影響、麻酔の導入時間ならびに覚醒時間に及ぼす影響等につき本学会では初めてのシンポジウムでありました。6) 「欧米各国とわが国における研究擁護活動」については、黒澤先生にオーガナイズしていただきました。セダーサイナイメディカルセンターの John D. Young 氏と Kathryn A. Bayne 氏に講演をお願いし討論した。7) 「動物実験と労働安全衛生」に関しては、日本実験動物学会、日本実験動物技術者協会ならびに日本実験動物環境研究会の 3 団体が共催で佐加良先生、大和田先生にオーガナイズしていただきました。動物実験を行う上での復習ならびに新たな注意事項等を周知した点でこのシンポジウムが生きたと思われる。8) 「脂質代謝異常と動脈硬化の病態モデル、その病態と医学研究への応用」については塩見副会長にオーガナイズしていただいた。

その他、バイオリソースパネル展示については、「実験動物のバイオリソース：現状と展望」について、芹川先生にオーガナイズしていただきました。その他、「遺伝子マッピング」、「胚と精子の凍結保存」、「微生物モニタリング」の 3 課題について行い、「実験動物の麻酔」については、麻酔のシンポジウムを行った関係上、今回はお休みで来期から復帰する予定であります。ランチオンセミナーについては、昼食と勉強とを同時に行う便利な時間であるので、各企業で宣伝したいものを十分発揮できたものと思われる。器材展示については

終日行っており、日常の研究・業務に役立つものをご覧頂き活用していただきたいと思ひます。

なお、本学会での新しい試みを行いました。

1)AFLAS(アジア実験動物学会連合)、岡山実験動物研究会、関西実験動物研究会、神戸市、神戸国際観光コンベンション協会、中内カコンベンション振興財団に後援をお願いしたこと、2)関連3団体(日本実験動物学会、日本実験動物技術者協会ならびに日本実験動物環境研究会)による共催シンポジウムを行ったこと、3)座長つきのポスターセッションを行なったこと、4)一日だけのレジストレーションを行ったこと、5)開催場所の国際会議場の目的から、海外からの多数の参加者が集まったこと、6)発表において図表などを英文で作成していただいたこと、7)演題登録にあたり動物実験委員会の承認の有無を確認させていただいたこと、8)演題カテゴリーは従来のものを改めたことなどあります。

なお、2日目の夕方より神戸港に浮かぶコンチエルト号の船上で、ナイトダイナークルージングを行ったところ、締め切り人数の400名が2日目には満席となって盛況となったことなどが本大会を成功裏に導いたことと思ひます。いろいろ本大会の初めから終わりまで終始ご企画・計画いただいた常任組織委員、開催当日にいろいろなお仕事でご活躍いただいた実行委員、学会の中心となる事務を取り仕切っていただいたオフィステイクワンの皆様方へ深甚なる謝意を申し述べます。